

第4回アフリカ開発会議



平成20年6月27日

TICAD IV(第四回アフリカ開発会議)

2008年5月28日(水)～30日(金) 於:横浜



「元気なアフリカを目指してー希望と機会の大陸」との基本メッセージの下、

- ①経済成長の加速化
- ②人間の安全保障の確立
- ③環境・気候変動問題への対処

を重点事項として、アフリカ開発の方向性について活発な議論が行われた。

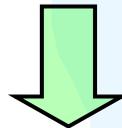
福田総理が全体議長を務め、開会式の基調演説において我が国の対アフリカ支援策を発表し、対アフリカODAの倍増、対アフリカの民間投資の倍増支援等を打ち出した。また、我が国の現職総理として最初にアフリカを訪問し、TICADⅢ時に議長を務めた森元総理が全体会合の審議をとり進めた。

TICAD IV(第四回アフリカ開発会議)

2008年5月28日(水)～30日(金) 於:横浜



- 国連、世銀及びUNDPとの共催の下、アフリカ51か国のみならず多数の先進諸国、アジア諸国、国際機関及び地域機関の代表が参加。
- アフリカからピンAU委員長を含む41名の国家元首・首脳級が参加。全体で3000人以上が会議に参加
- 福田総理は、40名のアフリカの首脳級参加者を含む47名と、高村外相は首脳級参加者を含む23名と個別会談を実施。



わが国外交史上類例を見ない規模。

横浜宣言

今後のアフリカ開発の取組・方向性に関するTICADプロセス参加者全員による政治的意思表明。

横浜行動計画

「横浜宣言」に沿って今後のTICADプロセスが具体的にどのようにアフリカの開発に取り組むべきかを示したロードマップ。

TICADフォローアップ・メカニズム

TICADIV以降、TICADプロセスでの発表事項の実施状況等に関する情報収集・分析・提供等を行う恒常的枠組みの構築。

議長サマリー

会議で議論された内容を踏まえて、議長の責任においてまとめられたもの。

TICAD支援策

2012年に債務救済を除く対アフリカODAを倍増し、そのうち、対アフリカ二国間贈与を倍増

主な支援分野

●アフリカがつながる広域インフラ整備支援(*)

- ー広域道路網の整備。通関手続円滑化(One Stop Border Post)支援を14箇所を実施
- ー電力インフラの整備のため、送配電線を整備



●農業・食料(*)

- ー緊急食料支援1億ドル(2008年5月～7月)(うち相当部分をアフリカへ)
- ーコメの生産量倍増を含む農業生産性の向上(灌漑施設の整備、品種改良、農業指導員5万人の育成等)



(*) インフラ、農業分野を中心に、最大40億ドルの円借款による支援

●貿易・投資の促進

- ー2012年までに対アフリカ投資が34億ドルへ倍増するよう支援
- ー「アフリカ投資倍増支援基金」の創設を含む25億ドル規模の金融支援
- ー貿易・投資分野の官民合同ミッションの派遣



●コミュニティ開発

- 一村一品運動を12ヶ国で展開
- AMV(アフリカン・ミレニアム・ヴィレッジ)を12ヶ国で展開



●教育と人材育成

- 小学校1000校、約5500教室の建設
- 10万人の理数科教員能力向上
- 地域住民の参画を通じた1万校の学校運営能力向上(「みんなの学校」)



●保健・医療

- 世界基金への追加拠出(5.6億ドル)
- 10万人の保健・医療人材育成
- 母子保健の向上
 - ・40万人の子供の命を救う
 - ・妊産婦の健康、リプロダクティブ・ヘルスの向上



●アフリカの水開発

- 650万人に安全な飲料水を提供するための給水施設整備
- 給水分野の人材5千人の育成
- 貴重な水を一滴たりとも無駄にしないよう、「水の防衛隊」を派遣



●クールアース・パートナーシップ

- 5年で100億ドル規模の支援(全世界)



TICAD IVに対する評価



●福田総理

今般、アフリカ諸国、開発パートナー諸国、アジア諸国、国際機関、市民社会の代表が横浜に参集し、3日間にわたり「元気なアフリカを目指して一希望と機会の大陸」との基本メッセージの下、多様かつ真剣な意見が交わされたことは誠に有意義であった。我が国外交史上類を見ない大規模な国際会議となったTICADIVは、成功裏に全ての議事を終了した。(閉会挨拶)

●キクウェテ・タンザニア大統領(AU議長)

今回のTICADIVはうまく行き、いい形で終わったというのがアフリカの指導者の全般的な印象である。日本政府をはじめ、国連、UNDP、世銀等のパートナーがしっかり準備していただいた証左である。また、我々の良好な関係を築いてきた日本のリーダーシップに感謝する。開会式や分科会を含め、議論は質が高く、アフリカの未来、開発に関するほぼ全てを網羅していた。今回の主要なテーマは成長の加速化、人間の安全保障の確立、環境・気候変動への対処というものであったが、アフリカの懸念は適切に扱われたものとする。今回、横浜宣言、横浜行動計画、フォローアップ・メカニズムが採択されたが、特にフォローアップ・メカニズムはこれまでなかったものであり、実に心強い。(共同記者会見における発言)

●サルコジ仏大統領

今回のTICADIVの開催は、日仏150周年の記念すべき年に当たる。アフリカとそのパートナーが一同に会し「元気なアフリカ」をテーマに話し合いが行われることを嬉しく思う。
G8サミット議長国としての日本が、北海道洞爺湖サミットにおいてアフリカを重要課題として扱うことについて全幅の信頼を置く。
(仏首席代表による代読メッセージ)

●ゼーリック世銀総裁

TICADは、喫緊の課題となっているアフリカの食料増産、農業活性化、工業化といった各分野について積極的な支援を進めていく。本年7月に予定される北海道洞爺湖サミットでは日本が議長国を務めるが、こうした課題解決のためには、国際社会の他の先進国の総合的な協力が必要であることをG8諸国に訴えて頂くよう期待する。
TICADプロセス開始以来15年が経過するが、こうしたアフリカを重視する精神は日本の新しい世代にも引き継がれていると確信。
また、この15年を経て、アフリカの若い世代も、自分たちは出来ると信じている。(全体会合における発言)

TICAD IVに対する評価

●毎日新聞社説

TICAD閉幕 「アフリカ型開発」を見たい

横浜市で開かれていたアフリカ開発会議(TICAD4)は、横浜宣言や横浜行動計画などを採択して終わった。具体的な支援を盛り込んだ横浜行動計画では、貿易・投資や保健、農業、教育のみならず、環境分野でも13年以降の温暖化防止の枠組みへのアフリカ諸国の積極的関与にも言及している。会議の所期の目的は達成したといっている。目標をフォローアップする仕組みが有効に機能しなければならない。開発支援の会議は、具体的な援助を約束すること以上に、その後をどうするかが大事なのだ。5年後のTICAD5では「アフリカ型の経済発展」のモデルを見せてもらいたい。

●日経新聞社説

一時のブームでは困るアフリカ支援

日本が主導するアフリカ開発会議は5年に一度開かれ今回は4回目だったが、今回ほど関心が高まったことはなかった。だが、アフリカ支援を一時のブームに終わらせてはならない。長期的取り組みが求められている。横浜で開かれた会議にはアフリカから51か国の代表のほか、アジア諸国、国際機関、さらに非政府組織(NGO)などの代表約3000人が参加した。参加人数が多い会議がよいとは限らないが、アフリカ開発会議は日本主導の会議として世界的に定着したと言ってよいだろう。今回もアフリカ諸国首脳から日本に感謝する言葉が相次いだ。だが、約束したことは着実に実行しなければならない。7月には福田首相が議長を務める主要国首脳会議(洞爺湖サミット)が開かれる。横浜での成果を生かし討議を進めてほしい。

●産経新聞社説

アフリカ開発会議 援助と自助の相乗効果を

首脳級の参加者は第1回5人、第2回13人、第3回23人、今回は約40人と増えてきた。日本の政府開発援助(ODA)が97年をピークに4割も減り、90年代の世界1位から昨年は5位にまで転落した中で参加首脳がこれだけ増えたのは、援助期待だけではなく会議に意義を見だしているからだろう。TICADは日本外交の数少ない成功例に挙げられる。アフリカ諸国にとっても自助努力の環境が整いつつある。援助と自助努力が相乗効果を生むような展開を期待したい。

TICAD IV (第四回アフリカ開発会議)

2008年5月28日(水)～30日(金) 於:横浜



TICAD IV (第四回アフリカ開発会議)

2008年5月28日(水)～30日(金) 於:横浜

